

1 単元名 挨拶—原爆の写真によせて
～状況を読む「光村図書」3年～

2 単元を貫く課題解決的な言語活動とその特徴

本単元では、詩を読んで批評文を書く言語活動を単元を貫いて位置付けた。その活動の中に「詩を分析する観点を明確にした学習課題の提示」「個人内の考えを交流させる少人数グループによるワールド・カフェ」「観点ごとの分析を項立てに生かした批評文の作成」等の工夫を盛り込むことで、「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」(C 読むこと ウ)及び「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」(C 読むこと エ)を実現できるようにしている。

3 単元について

(1) 生徒観

生徒は既習学習「握手」「説得力のある考えを述べよう」で、文学作品をもとに批評文を書く学習を経験している。しかし、その際に書いた批評文は「学級全体で読み取った内容に自分の感想を加えて書く」程度のものであった。よって、生徒が書いた批評文の内容は似たものが多くあった。

本単元の学習にあたって実施した調査結果は以下のとおりである。質問の内容は「詩」に関する基礎的な表現技法に関するものと、「読むこと」の指導事項「ウ・エ 自分の考えの形成に関する指導事項」に関するもの、及び「自分の考えを交流する」という活動内容に関するものを設定した。

実態調査 (*年生*組 男子**人 女子**人 計**人 *月**日実施)

1. 表現技法の名称と、その説明文とを正しく結びつけてください。								
技法名	擬人法	直喩	暗喩	体言止め	反復法	対句法	省略法	倒置法
正答者数	**人	**人	**人	**人	**人	**人	**人	**人
2. 詩の中から表現技法を見つけ、①その名称と使われている部分、及び②その効果について答えてください。								
①・②ともに正答		①のみ正答		②のみ正答		①・②ともに誤答		
*人		**人		*人		*人		
3. あなたは小説や詩について自分の考えをもち、文章として表現することについてどんな印象がありますか。								
得意だ		どちらかという得意だ		どちらかという苦手だ		苦手だ		
*人		**人		**人		*人		
4. あなたは「話し合い」をしながら考えを交流し合うことについて、どんな印象がありますか。								
得意だ		どちらかという得意だ		どちらかという苦手だ		苦手だ		
*人		**人		**人		*人		

アンケート結果を見ると、基本的な表現技法の特徴についてはほとんどの生徒が理解できていることが分かる。

表現技法とその効果を問う質問では、表現技法及びその効果について考えを深められた生徒は*人に留まった。文章表現の工夫について理解が不十分な生徒も、他の生徒と意見を交流する中でその不足を補わせたい。

「詩や小説に関して意見をもち文章として表現すること」に関する質問では「得意だ」「どちらかという得意だ」と答えた生徒が合わせて**人で全体の*割弱であり、「どちらかという苦手だ」「苦手だ」と答えた生徒が*割強と過半数を超えている。「苦手だ」と感じる理由としては「何を書いて良いのか分からなくなる」「読み取ったことを文章に表すのが苦手」等が挙げられている。

『話し合い』を取り入れた交流活動に関する質問では「得意だ」「どちらかという得意だ」と答えた生徒を合わせると**人となった。これは、全体の*割弱であり、「話し合い」を好む生徒が比較的多いと考えられる。一方「どちらかという苦手だ」「苦手だ」と答えた生徒は、その理由として「多数決の際、自分の意見に関わらず、周りの様子を見てから手を挙げてしまう。」「いつも自分の意見よりも、発言力のある人の意見ばかり尊重してしまう。」「自分の意見に自信をもつことができず、発言できないことが多い。」等が挙げられている。

(2) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領国語における3学年「C 読むこと」の指導事項「ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」及び「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」を受け、設定したものである。

本単元で取り上げる教材文「挨拶―原爆の写真によせて」は詩人「石垣りん」作の散文詩である。詩の構造は単純ながら様々な表現技法が用いられ、戦争を忘れ平和に浸っている現代人に対する警鐘が、暗喩的な表現とともに力強く語られている。

詩の単純な構造は、生徒が詩の全体を把握する事を容易にする。また、詩における表現の工夫とその効果を学ぶ上で、数々の表現技法が使われている本教材文は適材といえる。さらに、詩の暗喩的な表現を読み解かなければ作者の意図に近づくことができない本教材文は、詩に書かれた内容を深く思考する事を生徒に促すと考えられる。

(3) 指導観

中学校学習指導要領解説国語編では、3学年「C 読むこと」の目標として、先に挙げた「指導事項 ウ」及び「指導事項 エ」と対応する部分として「文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせる」と記されている。さらに、「文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力」とは、「内容を分析したり表現の仕方を批評したりして読む能力である」と定義づけている。そこで、本単元では生徒にこのような「能力」を育成するため「詩を分析する観点を明確にした学習課題の提示」の工夫を行う。「詩人 石垣りんについて」「詩に使われている表現技法について」「暗喩的表現について」といった分析の観点を示すことで、生徒の活動を焦点化する。

さらに、その活動を活性化し、生徒の考えを深める手立てとして「個人内の考えを交流させる少人数グループによるワールド・カフェ」を授業に取り入れる。話し合いを活性化させる手法として企業研修等で行われている「ワールド・カフェ」を学習活動に取り入れることで、生徒同士が考えを交流し合い、先に挙げた観点についての分析がより深まることをねらう。実態調査より分かった「『話し合い』を取り入れた交流活動」に対する抵抗が少ない本学級において、こういった手立てが有効に機能することが考えられる。

そして、生徒が学習を通して読み取ったことを表現する活動として「観点ごとの分析を項立てに生かした批評文の作成」を行う。これまでの学習で行った分析の観点を、そのまま「項立て」として生かし、そこに自分の読み取った作者の意図を加えた批評文を作成する。分析の観点を批評文の「項立て」とすることは、多くの生徒が難解に感じるであろう「批評文」の作成を比較的容易にする。実態調査より分かった「詩や小説に関して意見をもち文章として表現すること」に苦手意識をもつ生徒が多くいる本学級において、「書く」活動における抵抗感を押さえるための手立てである。読み取ったことを批評文として表現することにより、生徒の内面に蓄積された詩に関する分析結果や、そこから感じ取った作者の意図を整理することを促し、理解をいっそう深めることにつなげたい。

4 目標

- 詩を読み、展開や表現の仕方について分析し、他者との交流を通して自分の考えを深めようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 詩を読んで批評するために、語句の使い方や表現技法の効果など、表現上の工夫に注意して読むことができる。
(読むこと)
- 詩を読んで、そこに表現されている作者のものの見方や、考え方などを整理し、それに基づいて人間、社会などについて自分の考えをもつことができる。
(読むこと)
- 詩が書かれた時代や、作者の置かれていた状況等を考えあわせた上で、時間の経過や状況の変化による、言葉の意味や使われ方の変化等に注意して読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ 詩を読み、展開や表現の仕方について分析し、自分の考えを深めようとしている。	・ 詩を読んで批評するために、語句の使い方や表現技法の効果など、表現上の工夫に注意して読んでいる。 ・ 詩を読んで、そこに表現されている作者のものの見方や、考え方などを整理し、それに基づいて人間、社会などについての自分の考えをもっている。	・ 詩が書かれた時代や、作者の置かれていた状況等を考えあわせた上で、時間の経過や状況の変化による、言葉の意味や使われ方の変化等に注意して読んでいる。

6 単元の指導計画（8時間扱い）

配時	主な学習内容	学習形態	主な評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読及び視写し、分からない言葉について調べる。 作者「石垣りん」について資料やインターネットを活用して調べる。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読及び視写し、分からない言葉について調べることで「詩」に対する関心と、これからの学習に対して意欲を高めている。 (国語への関心・意欲・態度) 「石垣りん」について資料やインターネットを活用して調べる活動を通して、作者の人柄やものの考え方について興味をもとうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
2	<ul style="list-style-type: none"> 詩に使われている表現技法とその効果について考える。 	一斉 グループ(6人) × 6	<ul style="list-style-type: none"> 詩の中から表現技法が使われている箇所を見付け、その効果や、込められた作者の意図を考えている。 (言語についての知識・理解・技能)
3	<ul style="list-style-type: none"> 作中に出てくる「顔」という表現について仲間分けをし、二項対立チャートを用いて、それぞれの間にある相違点について考える。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 詩中に複数回登場する「顔」という表現を手がかりに、原爆の被害を受けた人々と、現代に生きる人々との相違点について考えている。 (読む能力)
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> 作中に出てくる「顔」という表現について、それぞれの間にある相違点、さらには共通点について、グループで考える。 	一斉 グループ(6人) × 6	<ul style="list-style-type: none"> 作中に出てくる「顔」という表現について、それぞれの間にある相違点、さらには共通点について、グループで考え、原爆の被害を受けた人々と、現代に生きる人々との相違点について考えている。 (読む能力)
5	<ul style="list-style-type: none"> 詩中にある「友」「あなた」「午前八時一五分は再びやってくる」といった抽象的、暗喩的な表現が具体的に何を指しているのかについて考える。 	一斉 グループ(6人) × 6	<ul style="list-style-type: none"> 詩中にある抽象的、暗喩的表現が何を指しているのかを考えることで、前時の学習内容と合わせ、詩を通して作者が伝えたいメッセージについて考えている。 (読む能力)
6 7	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を基に批評文を書く。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で考えた「石垣りん」「表現技法」「顔」等について、それら学習課題をそのまま項立てに生かし、自分の考える作者の伝えたいメッセージは何か、を加えて批評文を書いている。 (読む能力)
8	<ul style="list-style-type: none"> お互いの書いた批評文を読み合い、意見を交流する。 	グループ(6人) × 6	<ul style="list-style-type: none"> 互いの書いた批評文を読み合うことで、共通点や相違点について考え、「詩」に対する自分の考えを更に深めている。 (読む能力)

7 本時の学習

(1) 目標

詩中に複数回登場する「顔」という表現を手がかりに、原爆の被害を受けた人々と、現代に生きる人々との相違点と共通点について考えることができる。

(2) 準備・資料

- ①教科書 ②ノート ③ワールド・カフェ用ワークシート ④自己評価シート
⑤表現技法に関する分析シート

(3) 展開

【**】は「**スタイル」との関連

※ スタイル	学習内容及び活動	指導・援助の留意点と評価	資料
I (5分)	1 前時で作成した「二項対立チャート」を基に既習事項の振り返りを行う。 【ストレート】	・前時では、どんな観点でどのように「二項対立チャート」を作成したのかを確認し、本時の導入とする。 【**】	⑤
II (30分)	2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">詩中に登場する「顔」を2グループに分け、それぞれの相違点と共通点について考えよう。</div>	・本時で付けたい力が「相違点と共通点という観点をを用いて、文章を分析する力」であることを確認する。	
	3 2グループ間の相違点と共通点について考える。 【6人グループ×6】 (1) 個人で、2グループ間の相違点と共通点について考える。 (2) 少人数グループで2グループ間の相違点と共通点について考える。 (3) メンバーを入れ替え、2グループ間の相違点と共通点について考える。 (4) 元のメンバーに戻り、グループとしての意見をまとめる。	・活動が停滞していれば「相違点と共通点をそれぞれ○個以上書く」等、達成点を示すことで、生徒の意欲を高める。 ・自分の意見を基に話し合い、吟味をしながらワールドカフェ用ワークシートに意見を書かせていく。 ・時間、もしくは話し合いの様子を見て、メンバーの入れ替えを行い、再び話し合いが活性化することを促す。 ・他のグループで得た意見も合わせ、班としての意見をまとめてみるよう促す。 ② 詩中に複数回登場する「顔」という表現を手がかりに、原爆の被害を受けた人々と、現代に生きる人々との相違点と共通点について考えている。 (読む能力 観察・ワークシート)	① ③
III (15分)	4 他グループと意見を交流し合う。 【全体】 (1) テーブル上のワークシートを自由に読み合い、意見を交流する。 (2) 質問があれば、その都度、質疑・応答を行う。	・他グループのワークシートに自分たちのグループには無い意見があるか、注目してみるよう助言する。 ・相違点と共通点との間に重なりがあることに気付かせたい。 ・共通点の中でも「きれいな顔をしていた」「明日があると考えていた」「油断していた」といった、作者の伝えたい「現代人に対する警鐘」に関わる意見に着目させたい。 【**】	③
	5 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	・ワールド・カフェを通して自分の分析内容が深まりをもったかについて評価させる。	④